

1 本年度の学校重点目標

- (1) 自ら学び続ける力を育成する。
- (2) 感謝する心や社会性を育む。
- (3) 信頼される学校づくりをすすめる。

2 自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

(1) 自ら学び続ける力を育成する。

具体的取り組み	達成状況	自己評価と改善の方策	学校関係者評価
①わかる授業の推進	A	公開授業週間が定着し、生徒による授業評価も積極的に行われた。	学習指導面における自己評価は概ね妥当である。 特色ある教育課程や体験活動的な各種行事については、保護者への情報提供のあり方に工夫し、学校の取り組みを広く知っていただくことが大切である。
②魅力ある教育課程の編成	A	習熟度別学級編成や適切な選択制が推進された。	
③特別活動や学校行事の充実	A	特別活動や行事の指導体制について見直しがなされ、その充実が図られた。	

(2) 感謝する心や社会性を育む。

①生徒理解を深める	A	「心のサポートシステム」の取組を活用して、生徒理解や生徒指導力の向上に努めた。 就労の奨励に加え、生徒実態に即したキャリア教育を推進していく体制を整備した。 ボランティア活動活性化の条件整備を行うなど体験活動の充実に努めた。	「心のサポートシステム」の取組は高く評価できる。 また、地域行事への参加や東北ボランティアなどボランティア活動の活性化がみられた。 将来やりたい職業を言える生徒を育てるという観点からキャリア教育を進めて欲しい。
②職業観・勤労観の育成	A		
③自己有用感の向上	A		

(3) 信頼される学校づくりをすすめる。

①情報発信の充実	A	ホームページを改新し、情報提供のコンパクト化に努めた。 日常の連絡が密に行われ、家庭と連携して指導にあたった。学年通信の記載事項を見直し、改善した。 開かれた学校づくりでは、複数回のオープンハイスクールを継続し、高校生ふるさと貢献活動を活用した。	保護者との日常的な意思疎通は評価できる。 地域の補導委員会等での生徒の評判は大変良くなった。生徒の雰囲気には教師集団のあり方が表れると聞いている。
②家庭との連携	A		
③地域や中学校との連携	A		

3 総合的な自己評価

A：総合的に高い評価結果を得ることができた。授業改善の取組や体験活動を一層進め、「心のサポートシステム」の実践に果敢に取り組み、適切な情報の提供に努めていきたい。

4 総合的な学校関係者評価

A：自己評価結果は概ね妥当であるが、少数意見にも留意して学校評価の運用を図ることが大切。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価委員会の意見

評価基準が旧来の儘で改善点の把握や明確化には功を奏していない。見直すべきである。